水産研究・教育機構 機関リポジトリ
FRA Japan Fisheries Research and Education Agency Institutional Repository

# 東北の海で生きるスケトウダラの子供たち



| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者: 水産総合研究センター<br>公開日: 2024-05-31<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 服部, 努<br>メールアドレス:<br>所属: |
|---|---|
| URL | https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2006411 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.

# 東北の海で生きるスケトウダラの子供たち

冬になると、北海道南部の噴火湾には多くのスケトウダラが産卵のためにやってきます。そこで生まれた子供たちは湾内で大きくなり、夏以降、北海道の海へと旅立ちます(図1)。

図1.　スケトウダラの写真

一方、東北の海では、親が少ないにも関わらず、多くの子供たちが暮らしています。このことから、東北の海で大きくなった魚は、産卵のために噴火湾に帰ると考えられています。

では、子供たちはどこからやってきたのでしょうか。魚の頭の中にある耳石（じせき）には、１日１本の線（日周輪）が刻まれます。そこで、親潮が強かった2000年５月の子供たち（０歳魚）の耳石を観察し、彼らがどこからやってきたのかを調べました(図2)。

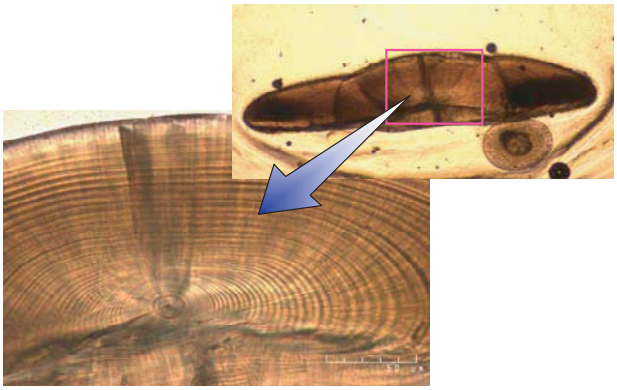

図2. スケトウダラの耳石を研磨して顕微鏡で観察した日周輪（木の年輪のように、1日1本の線ができる）。

日周輪の間隔を調べた結果、北日本の太平洋側には、成長が良い魚と悪い魚がいることが明らかとなりました(図3)。

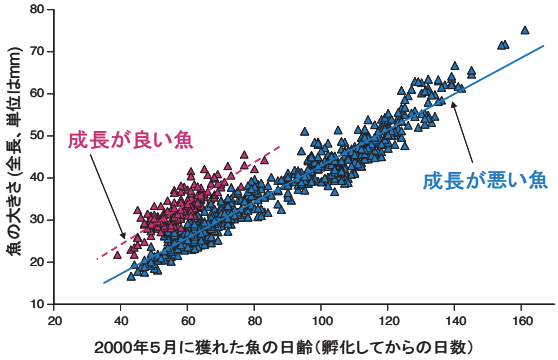


図3.　孵化してからの日数と魚の大きさの関係
成長が良い魚と悪い魚が認められる。

海域間で比較すると、成長が良い魚は東北の海にしか分布していないのに対し、成長が悪い魚は噴火湾から東北に分布していました(図4)。

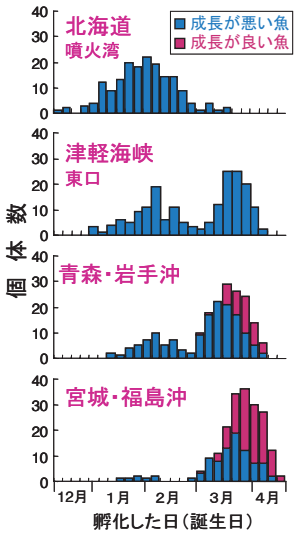


図4.　海域別の孵化日組成

このことから、成長が悪い魚は噴火湾生まれ、成長が良い魚は東北生まれと考えられ、親潮が強い年には東北の海が北海道と東北の両方で生まれた子供たちの生活の場として重要な海域になっていることがわかりました。

研究担当：資源評価研究室　服部　努

**東北水産研究レター No. 3**

平成19年3月 発行

発行：（独）水産総合研究センター
編集：（独）水産総合研究センター　東北区水産研究所
〒985-0001　宮城県塩釜市新浜町3-27-5
TEL 022-365-1191　FAX 022-367-1250
※ 平成19年4月3日から ホームページアドレスが変更となります。
http://tnfri.fra.affrc.go.jp　（変更前 http://www.myg.affrc.go.jp）